



も く じ

1	きまりを守って書く	4
2	まとまりに気をつけて読む	10
3	地図のきまりを利用する	16
4	体験したことを書く	22
5	要点をまとめながら読む(1)	28
6	言葉を関連づける	34
7	身の回りの課題に気づき、解決する方法を考える	40
8	順序をふんで考える	46
9	調査・研究の方法を決める	52
10	自然・文化を守るためにできることを考える	58
11	身近なできごとを新聞記事にする	64
12	イラストや図を見て考える	70
13	ごみ問題の解決法を考える	76
14	要点をまとめながら読む(2)	82
15	日本の国土について考える	88
16	地域の特色を調べる	94
17	文章を読み、意見や考えを書く	100
18	資料を読み取り、説明する	106
19	資料を読み取り、考えられることをあげる	112
20	外国との友好関係を深める工夫を考える	118

1

きまりを守って書く

テーマ

- 原稿用紙の正しい使い方を知る。
- 日本語の正しい表現を知る。
- 表記のきまりを守りながら、正しい日本語で文章が書けるようになる。

例題1

次の作文を、原稿用紙の正しい使い方にしたがって、書きましょう。

ぼくは、しょうぎを指すのが好きだ。ぼくにしょうぎの指し方を教えてくれたのは、いっしょにくらしている祖父だ。小さいころは、すぐに負けてしまうので、くやし泣きをしたり、すねたりして祖父をこまらせていた。

先日、祖父が「ずいぶん強くなったな。」と、ほめてくれた。とてもうれしかった。

考え方

ステップ 1 文章の書き出しや、段落の初めは、(①)。

ステップ 2 (②) や引用文はカギカッコ(「 」)で囲んで書く。会話文と
その後の文は行を変えて(改行して)書く。

ステップ 3 (③) やとじるカギカッコ(「」)は行の初めにこないようにし、
そのような場合には、前行の一番最後の文字と同じマスに書く。句点と、とじる
カギカッコ(「」)は同じマスに書く。

基礎知識

原稿用紙の使い方と注意するところ

(1) 「,」や「。」が行末にきた場合、文字といっしょに1マスに入れます。

(例) てす

(2) 会話文の最後の文字が行末にきた場合は、「」と「。」も文字と同じマスに入れます。

(例) か。」

例題2

次の文には、それぞれ間違っ^{まちが}た表現^{ひょうげん}が1か所ずつあります。下の3つの例にならって、間違え^{まちが}ているか所に——線を引^ひき、正しく直^{ただ}しましょう。その言葉を消^けすだけでよいときは、解答^{かいとう}らん^{らん}に×を書^かきましょう。

(例1) いちばん最後^{さいご}に手をあ^あらいます。→ 最後

(※「最」と「いちばん」は、同じ意味の言葉が重なっているの^{ので}、「最後」だけでよい。)

(例2) わたしは、にがい野菜も食^たべれます。→ 食べられます

(※「食べれる」は、「らぬき言葉」といわれ、可能^{かのう}の意味を表す「れる」「られる」のうち、「られる」がつくべき言葉の「ら」がぬけてしまったもの。)

(例3) ぜんぜん似^に合^あってるよ。→ 似合わない

(※「ぜんぜん」はうしろに「～ない」という否定^{ひてい}の言葉を続^つけて使う。「ぜんぜん～する」は、間違^{まちが}った使^{つか}い方。)

- (1) このくつ、超^{ちやう}かっこいいね。 → ()
- (2) この服は、小さすぎて着^きれません。 → ()
- (3) 今日の帰^{かえ}り、お茶しに行^いこう。 → ()
- (4) き^きのうから、頭^{づつう}痛^{いた}がいたい。 → ()
- (5) この本、すご^{すご}いおもしろいよ。 → ()

考え方 **ステップ1** 日本語には、言葉のきまりがあり、これを(①)とといいます。

ステップ2 (②)の言葉は、重ねて使^{つか}いません。

ステップ3 ふだんの会話で使^{つか}っている言葉でも、実際^{じっさい}には間違^{まちが}った使^{つか}い方をしてい^るものがあります。話し言葉は、(③)などに用^{もち}いるときには、注意^{ちゅうい}しなければなりません。(例)「～しちゃう」→「～してしまう」

基礎知識

誤用^{ごよう}とはされない言葉

●湯をわかす

水をわかしたものが湯^ゆですから、「湯をわかす」は本来おかしな表現^{ひょうげん}ですが、出来上^{できあ}がった状態^{じょうたい}を表^{あらわ}すことでわかりやすい表現^{ひょうげん}となるため、誤用^{ごよう}とはされないことが多いです。

ただし、「夜^よが明^あける」は、朝^{あさ}になるからといって、「朝^{あさ}が明^あける」とは言^いわないので気^きをつけま^しょう。

例題3

次の(1)~(6)の文のうち、正しい日本語表現ひょうげんをしているものを3つ選んで、番号で答えましょう。

- (1) 10日間1日も休まず、試合に出続けたあの人に、鉄人というレッテルをはった。
- (2) 優勝ゆうしょうムードに水を差さないてください。
- (3) とても耳ざわりな音楽をきいて、心がやすらぎました。
- (4) 流れにさおさすように計画がうまくいきました。
- (5) かれ木も山のにぎわいと言いますから、ぜひパーティーにご参加ください。
- (6) いまさら、くやんでも、あとの祭りではないでしょうか。

() () ()

考え方

ステップ1 日本語には、2つ以上の言葉からなり、言葉そのものの意味とは別の決まった意味をもつ(①) という言葉があります。

ステップ2 昔からの言い伝えて、身近なことからについての教訓などを短い言葉で表したものを(②) といいます。

基礎知識

知っておきたい体に関する慣用句かんようく それぞれの意味を確認しておきましょう。

目 ……をかける にあまる を光らす が高い	鼻 ……をあかす にかける が高い であしらう	頭 ……が上がらない が下がる に来る	手 ……をぬく を出す を広げる がかかる
耳 ……がいたい につく をかす	口 ……がうまい がかたい が悪い	のど ……から手が出る うで ……が上がる をふるう が立つ	足 ……を引っぱる が出る はら ……を決める
顔 ……が広い をつぶす	指 ……をくわえる ほね ……がおれる	すね ……をかじる かた ……を落とす	むね ……を打つ を割る
歯 ……が立たない のうくような	こし ……が低い がひける	を持つ を並 <small>なら</small> べる	胸 ……を打つ をかりる
ほお ……がゆるむ をそめる		血 ……の気が多い がさわぐ	はだ ……があう で感じる

※他の慣用句についても調べてみましょう。

確認問題

- 1 次のAさんとBさん、Cさんの会話文には、言葉のきまりとして間違った表現が使われています。
——線①～⑤を正しい日本語に直しましょう。≫例題2

A:「見て、この車、①すごいかっこいい。」

()

B:「ほんと、②超大きいし、色もきれい。」

()

C:「でも、わたし、あまり赤って好きじゃないな。」

A:「え、③マジ? わたしはイケてると思う。」

()

C:「④っていうか、わたし的には、となりの黒い車の方がいいな。」

()

B:「それって、⑤ありえない?」

()

- 2 次の文の()にあてはまる、体のある部分の名前を書きましょう。≫例題3

- (1) お母さんは、今日の夕飯の()をぬいた。
 □(2) 先生にほめられて、ぼくは()が高い。
 □(3) わたしの話をずっとひみつにしてくれて、彼女は()がかたい。
 □(4) ぼくは速く走れないので、チームの()を引っぱってしまう。
 □(5) この映画の別れのシーンは、わたしの()を打った。

- 3 家に帰ると、次のようなメモが置いてありました。このメモは、すべてひらがなで書かれているために、2通りの意味にとれてしまいます。どのような意味にとれるのかわかるように1か所に読点をうち、メモを漢字をまじえて2つの文に直しましょう。≫例題2

メモ:「ははがくるまでまっている。」

()

()

練習問題

1 次の(1)~(10)の文にはそれぞれ間違いがあります。正しい日本語表現に直して、文全体を書き直しましょう。

□(1) わたしは、おばあさんがつくったケーキがおいしい。

()

□(2) ぼくは弟といっしょに、学校の近くのお店に弟と行きました。

()

□(3) おそらく10時には行けると思います。

()

□(4) 先生が明日学校は休みだと申されました。

()

□(5) わたしはメロンとイチゴの味がするかき氷が好きです。

()

□(6) お母さんはしばしば「早くしなさい。」とときどきぼくに注意をします。

()

□(7) あとで後悔しないようにベストをつくします。

()

□(8) ぼくが学校に行って、もう授業は始まっていた。

()

□(9) わたしになりたい職業は、お医者さんになりたいと思っている。

()

□(10) 日曜日は、テニスをしたり、読書をしてすごします。

()

- 2 次の文章には、^{げんこう}原稿用紙の使い方や、日本語の表現・漢字に間違いがふくまれています。間違っているか所に——線を引いて、すべて正しく直した文章を書きましょう。
(^{かいどう}解答用紙は、別紙のものを使いましょう。)

ぼくは、今年の元日からマラソンをしています。なぜマラソンを始めたのかというと、体力づくりです。まい朝6時に起きて、家から近所の公園を走ります。いちばん最初は、^{ちよう}超つかれました。つかれているぼくを見て、「無理するなよ。」とお父さんが言ったほどです。でも、毎日走っているうちに、だんだん^な慣れてきて、楽しくなった。

朝令暮改^{ぼ かい}ということわざがあるが、その通りだと思いました。というのも、朝早く起きると、朝の時間がすごく楽しく感じるからです。マラソンをするだけでなく、お父さんやお母さんとゆっくり話をしたり、学校へ行くまでの間に1日の計画を立てて、いろいろなことができます。

コラム ^{ごよう}誤用の多い言葉について

言葉には、多くの人に使われているうちに、いつしか誤用されることが多くなったものもあります。たとえば、次のような言葉があります。

● ^{なさ}情けは人のためならず

本来は、「人に情けをかけるとめぐりめぐって自分にかえってくる」という意味ですが、多くの人が「人に情けをかけるのは、その人のためにならない」という意味で使っています。

● ^{こういつてん}紅一点

本来は、「多くの人たちの中で^{いさい}異彩をはなつ人」のことを指していましたが、「多くの男性の中に女性が一人まじった」ことを指すようになりました。

● 失笑する

本来は、「思わず笑いだす」ことですが、「笑いもでないくらいあきれる」意味で使われることが多くなっています。

また、言葉そのものを^{せいかく}正確に使っていないことが多いものもあります。たとえば、次のような言葉があります。

● 上を下への大騒ぎ

上のものを下へ、下のものを上へ、というようにきわめて^{こんらん}混乱したようすを表す言葉ですが、「上へ下への大騒ぎ」「上や下への大騒ぎ」など、まちがえて使われることが多いようです。

● ^{き き い ばつ}危機一髪

髪の毛一本ほどの差で^{なん}難をのがれるようすを表す言葉ですが、「危機一発」とまちがえていることが多い言葉です。

● ^{けんめい}一所懸命

もともと武士が^{ぶし}領地を^{りょうち}必死に守り生活をしていく意味で使われていた言葉ですが、それから転じて一つのことを必死に行う意味で使われるようになりました。現在では、「一生懸命」という漢字で使われることが多くなりました。